令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
自然体験フォローキャンプ

## １．事業の目的（趣旨・ねらい）

豊かな自然環境の中での野外探索や野外炊事、トウモロコシ狩り・牛のえさやり・スキー体験等を通して、自主性、達成感、自己肯定感の向上を図る機会とするとともに、青少年施設での生活を通して、生活リズムの改善、ルールやマナーの習得、仲間と一緒に過ごす中での協調性や相互理解を深める機会とし、更なる生活力の向上を図る。

## ２．事業の概要

### （１）期日

第１回　令和４年７月１６日（土）～１８日（月）
第２回　令和５年２月　４日（土）～　５日（日）

### （２）参加者

第１回　社会福祉法人みその児童福祉会　岡山聖園子供の家
２１人（幼児５人、小学生４人、中学生２人、高校生５人、職員５人）
第２回　社会福祉法人みその児童福祉会　岡山聖園子供の家
１５人（小学生４人、中学生２人、高校生４人、職員５人）

### （３）企画・運営のポイント

①　豊かな自然環境の中での活動ができるように、連携施設（岡山聖園子供の家）の希望を可能な限り取り入れたプログラム作りを心がけた。
②　より多くの子供たちに自然体験をしてもらうために夏と冬の２回を計画した。
③　所内だけでなく所外の施設も利用することで、多様な体験活動ができるようにした。
④　年上の子供が年下の子供の面倒をみる活動や責任をもって行う活動などを取り入れることで、自己肯定感を高められるようにした。
⑤　実施に際しては、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、参加者同士の間隔や身体接触に留意したり、換気や消毒の呼びかけに努めたりしながら活動を行うようにした。

## ３．活動の内容等

### （１）日程　第１回

| 日数 | 日付 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １日目 | ７/１６（土） | | | | | | | | | | 入所式 | アイスブレイク | 夕食 | 入浴 | 天体観測 | 就寝準備 | 就寝 |
| ２日目 | ７/１７（日） | 就寝 | 起床洗面 | 朝食 | フィールドビンゴ | | 川遊び | 昼食 | ランプシェード | | マウンテンバイク乗り物遊びフィールドアスレチック | 野外炊事 | | 入浴 | 就寝準備 | 就寝 |
| ３日目 | ７/１８（月） | 就寝 | 起床洗面 | 朝食 | 準備バス移動 | トウモロコシ狩り牛のえさやり体験 | | 昼食 | 振り返り | 退所式 | | | | | | |

### 日程　第２回

| ２月４日（土） | | ２月５日（日） | |
|---|---|---|---|
| 11:00 | 入所式・仲間づくり | 6:30 | 起床・洗面 |
| 12:00 | 昼食 | 7:30 | バス移動・朝食 |
| 13:00 | 探索 | 9:30 | 準備 |
| 13:45 | ネイチャーパウチ | 10:00 | スキー教室 |
| 15:00 | 野外炊事 | 12:00 | 昼食・雪上体験 |
| 18:30 | ベッドメイキング | 14:30 | 片付け |
| 19:00 | 入浴 | 15:00 | バス移動 |
| 20:00 | 休憩 | 16:30 | 退所式 |
| 20:30 | 絵本の読み聞かせ | | |
| 21:30 | 就寝準備 | | |
| 22:00 | 就寝 | | |

### （２）活動の状況

【第１回：アイスブレイク】

【第１回：フィールドビンゴ】

【第１回：川遊び】

【第１回：野外炊事】

【第１回：トウモロコシ狩り】

【第１回：牛のえさやり体験】

【第２回：ネイチャーパウチ】

【第２回：野外炊事】

【第２回：絵本の読み聞かせ】

【第２回：スキー教室】

４．成果・課題

（１）満足度

第１回　満足：１００％

第２回　満足：　８７％　やや満足：１３％

（２）参加者の声

①　第１回

ア．幼児・児童・生徒

ａ．とても貴重な体験ができました。ぜひまた来たいです。

イ．職員

ａ．職員の雰囲気が良く、子供たちも安心して過ごせたと思います。

ｂ．高校生が小さい子の面倒を責任もってみるなど、普段見ることができない一面を見ることができてよかったです。

②　第２回

ア．幼児・児童・生徒

ａ．分からないことがあったり、困っていたりしたらボランティアや職員の方が声をかけてくださり、嬉しかったです。スキーでもアドバイスをしてくだ

さったりしたので、とても楽しい思い出になりました。

ｂ．初めてスキーをやってみて思っていた以上に難しかったけど、とても楽しかったです。ボランティアの人たちとも色々なことを話せてとても楽しかった。

イ．職員

ａ．子供たちは初めての経験が沢山で目を輝かせていました。帰ってからも「楽しかった」「時間を戻せたらいいのに」など口にしていました。施設では体験できないとても充実した２日間でした。子供たちの良い所を改めて感じることができて感謝しています。

ｂ．２日間の流れやプログラム、活動内容もとてもよかったです。子供たちには火おこしや薪割りの経験は貴重な体験になったと思います。スキーを特に子供たちは喜んでいました。

**（３）成果**

①　活動の初めに全体での目標を共有したことで、参加者は一人一人意識して行動することができた。

②　子供たちにとって普段できないことをたくさん体験することができ、満足してもらうことができた。最後に涙を流す子もいて、たくさんの思い出をつくることができた。

③　園では普段見られない子供たちの姿を引き出すことができた。

④　職員、ボランティアが参加者一人一人に積極的に声をかけたことで、参加者も安心した雰囲気で過ごすことができた。

**（４）今後の課題**

①　第１回は、幼児から高校生まで年代が幅広く、今回のプログラムではゆとりが少なく、タイトなスケジュールとなった。移動時間や休憩時間も考慮して、ゆとりのあるプログラムを計画していく。

②　第２回で使用したスキー場は、ウェアーレンタル、リフト、スキー教室が全て別会社だったため、連絡が複数にわたり事前準備に時間がかかった。旅行会社を介するなどして負担軽減につなげたい。

③　利用日が日曜日であったため、スキー場には多くの人がいて、エリアも広く参加者の所在確認に苦労した。トランシーバーを用意し、適宜連絡を取り合ったが、参加者にビブスを着用してもらい、視覚的にもわかりやすくする。

④　県内の児童養護施設に当所の事業情報が効果的に伝わるように広報していく。

**担当：企画指導専門職　　藤本　昌克**